



くば小児科 クリニック

院内報 2010年12月・2011年1月号

● 院内版感染症情報 ～2010年第50週（12/13～12/19）

2010年	第34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50週
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A群溶連菌咽頭炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎	3	1	2	1	4	1	0	0	1	0	2	0	1	6	6	4	11
水痘	0	0	0	0	0	0	0	2	1	3	1	0	1	0	0	0	3
手足口病	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
突発性発疹	1	1	2	1	1	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	2	0
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
風疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性耳下腺炎	2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	2	0	0	1	0

11月中旬以降、毎年冬場に流行するウイルス性胃腸炎（ノロまたはロタウイルス）が増えてきており、年末にかけて更に増加しそうな気配です。咳が多くなるタイプ（乳児で重症化しやすいRSウイルスを含む）や熱が高くなるタイプもある程度みられています。例年、水痘と溶連菌感染症も流行する季節です。

● インフルエンザ流行期へ <予防接種実施中>

やはり今シーズンはA香港型が流行の中心になりそうです。A香港型は昨年流行した新型（A/H1N1pdm）よりも脳症などの合併症を起こしやすいので注意が必要です。高齢者に流行が広がると死亡例が多くなる可能性もあります。

すでに北海道や沖縄、九州では流行が拡大してきており、秋田、東京でも流行がみられるなど、全国的に流行期に入ってきました。八戸市内では10月中旬に

市内北部の一部で流行しましたが、いったん沈静化して、その後は明らかな流行はみられていません。例年通り年明けの3学期からになりそうな気配です。

予防接種はできれば流行が本格化する前に終わっておきたいので、2回目がまだの方は早めに接種するようにしましょう。

昨シーズンは行政やマスコミなどの異常とも言える「新型」騒ぎのため、様々な規制や型にはめられた医療が行われ現場は混乱しましたが、今シーズンは例年通り、症状、経過などをみながら個別に判断していくこととなります。

新しい抗インフルエンザ薬「イナビル」が使えるようになりました。これは、1回の吸入だけでタミフルを5日間飲むのと同程度の効果が期待できるという薬です。吸入がしっかりできることが必要なので、5歳以上が目安になります。新薬なので最初から全員一律に使うということにはなりません。

これまでのタミフル（内服薬：1歳～9歳）、リレンザ（吸入薬：吸入可能な年長児）との使い分けも、全国の小児科医の間でも統一的な基準はないため、少しずつ様子を見ながら判断していくこととなります。

点滴の薬「ラピアクタ」が小児にも投与できるようになりましたが、当院では使わない見込みです。

いずれの年齢でも、麻黄湯などの漢方薬の効果も期待できます。抗インフルエンザ薬との併用も可能です。

インフルエンザが疑われるような場合でも、「熱が出たら（真夜中でも）すぐ受診」ではなく、「具合が悪い、進行が早い、様子がおかしい（言動・行動の異常など）ときにはすぐ受診」という基本はどの型であっても同じです。

● 日本脳炎2期（9歳～12歳）が再開されました

日本脳炎の2期が接種できない状態が続いていましたが、11月から接種可能となりました。対象年齢は9歳～12歳までで、接種は1回になります。

1期の3回が終了していることが条件になりますが、1期が終了していない方は9歳～12歳の間に1期の残りを無料で接種することができます。7歳半～8歳の子には特例措置が適用されないので9歳になるまでお待ち下さい。この年齢の子にも救済措置が実施されるはずなのですが、まだ決まっていません。

接種スケジュールなどがわかりにくい場合はお問い合わせ下さい。

日本脳炎1期 3歳～7歳半 2回+1年後に1回

2期 9歳～12歳 1回 （1期末了者は9歳～12歳に1期接種）

● ヒブ（Hib）・肺炎球菌・HPVワクチン無料化へ…

いまの日本で起きている「3つの格差（国の内外／都道府県や市町村／家庭の収入レベル）」によって、子どもに必要な予防接種が平等に受けられないのは、この国の政治や行政、社会のありかたの「貧しさ」に起因するものです。

医療保険に入れない国民が3千万人以上いるという「あのアメリカ」でも、全ての子どもが日本よりもはるかに多い予防接種を無料で受けられるのです。

県内の全市町村議会に対し、昨年度〔ヒブと高齢者用肺炎球菌ワクチン〕と今年度〔小児用肺炎球菌と子宮頸がん予防HPVワクチン〕の2年にわたって自治体助成の陳情を提出し（文面は私が起草）、八戸市などいくつかの自治体で採択され実施されました。それに加えて、国レベルでは髄膜炎の患者団体や医療団体による働きかけが効を奏し、補正予算でヒブ・肺炎球菌・HPVワクチンの「無料化」が実施されることになりました（来年度まで限定）。

ただし、現時点では詳細について未決定の事項が多く、注意が必要です。

ここに来て出てきた情報では、全額助成（無料化）ではなく、9割分を国が1/2・市町村が1/2助成するというものです。残りの1割はどこに消えたのか？

おそらく多くの市町村では、その1割を市町村が負担する（国45%・市町村55%）ことになるものと予想されますが、一部の自治体で1割分を患者自己負担としたり、高額所得者を除外するという事態が生じないか懸念されます。

この「9割助成」については、何がしたいのか意味不明で、何の根拠もない「官僚の作文」と考えられます。私もコレを見たとき目が点になりました。

実施されるのは早くても今年度末か来年度からと予想され、それまで待つか悩ましいところですが、0～1歳児には子ども手当を活用して接種開始することをお勧めします。

● 12月～1月の診療日、急病診療所、各種教室、相談の予定

年末は12月30日午前まで診療し、午後より休診。年明けは1月4日から通常診療となります。急病診療所当番は12月4日(土)夜、12月23日(木)夜、1月1日(土)夜、1月23日(日)夜の予定です。次の赤ちゃん教室は1月15日(土)。育児・子どもの心相談、禁煙外来（保険診療）は随時受け付けております。メール予約システムをご利用下さい。

発行 2010年12月21日 通巻第149号 〒031-0823 八戸市湊高台1丁目12-26
TEL 0178-32-1198 FAX 0178-32-1197 <http://www.kuba.gr.jp/>

☆ 当院は「敷地内禁煙」です ☆